

# 観世音寺(太宰府市)

ここは観世音寺への参道





少し進むと南大門跡の礎石が残る



別の角度から見たところ



前方は講堂



アップで見たところ/黒田藩主によって元禄元年(1688年)に再建されたもの/福岡県指定文化財



左手には金堂がある/黒田藩主によって寛永8年(1631年)に再建されたもの/福岡県指定文化財



「南無阿弥陀佛」と記された扁額





太宰府市の歴史的風致形成建造物に指定されている



正面は金堂の不動明王像



説明坂/国指定史跡(観世音寺境内及び子院跡附老司瓦窯跡)



# 観世音寺境内

かんぜんおんじけいだい  
Kanzeonji Temple

大宰府政庁の東に接して建てられた観世音寺は大宰府の庇護のもと九州中の寺院の中心となり、「府の大寺」と呼ばれた。

百濟を擁護するため九州に下った斉明天皇が御倉橋広庭宮で亡くなり(661年)、その子天智天皇が、母の菩提を弔うためにこの地に観世音寺建立を奨励したことが『続日本紀』に記されている。

寺は80数年かけて天平18年(746)に完成し、天平宝字5年(761)には僧尼に戒を授ける戒壇を設置、奈良の東大寺・下野(栃木県)の英明寺と並んで日本三戒壇の一つに数えられている。

かつては方3町(約330m四方)の寺域を占め、講堂・金堂・五重塔などの建物が整った大寺院であったが、その後、火災や大嵐に会い、創建時の建物は失われている。現在の金堂と講堂は江戸時代に黒田藩主が再建したもので、県指定文化財となっている。

Kanzeonji was the most important ancient temple in Kyushu. The temple was built in memory of late Empress Saimei by her son Emperor Tenchi.

After its completion in 746A.D., it became the most important Buddhist establishment in Kyushu, exerting a great influence on all other temples in the region.

観世音寺(観音堂)は、平安朝の前期、藤原氏が畿内を治め、京都を都とした。藤原氏が畿内を治め、京都を都とした。藤原氏が畿内を治め、京都を都とした。



観世音寺絵図



講堂の発光調査



大風天像 觀音像

所在地 太宰府市観世音寺5丁目6番1号ほか  
指定名称 国指定史跡 観世音寺境内および子院跡  
指定日 昭和45年9月21日

**どのような建物があつたのか** 観世音寺には往時の寺院建物を残した痕跡が伝えられている。おそらく平安時代末頃の様子を再現したものである。築地場で見られた内側に中門と講堂を巨壁で結び、さらにその内側には西に金堂を、東に五重の塔を並べて建物を配置している。総門の左下には戒壇院も建っている。

**発光調査で何がわかったのか** 観世音寺境内やその周辺地で九州歴史資料館による発光調査が進められている。調査の結果、本堂発光に誘ふ16個の基石は創建講堂のものであり、建物は7間(約30m)x4間(約15.4m)であったこと、さらには講堂の礎石や階の心礎も創建時から動いていなかったことが実証されている。

また、講堂正面の基礎の発光では現在までに、5回分の拡張が行われていたことも利用している。

**巨大な仏像と日本最古の梵鐘** 創建時に金堂や講堂におかれていた仏像はほとんど失われているが、金堂には平安時代から鎌倉時代につくられた高さ5mほどの巨大な仏像を含めて18体の仏像、梵式、佛坐像などが収められている。この他、鐘楼に用された国宝の梵鐘は、京都妙心寺と兄弟鐘とされ、日本最古の梵鐘と考えられている。

→ もっと詳しく知りたい方は、九州歴史資料館・観世音寺案内  
太宰府市文化ふれあい館をお訪ね下さい。



国指定史跡 観世音寺境内  
国指定史跡 観世音寺境内  
国指定史跡 観世音寺境内

大宰府政庁の東に接して建てられた観世音寺は大宰府の庇護のもと九州中の寺院の中心となり、「府の大寺」と呼ばれた。

百済を援けるため九州に下った齊明天皇が朝倉橘広庭宮で亡くなり(661年)、その子天智天皇が、母の菩提を弔うためにこの地に観世音寺建立を発願したことが『続日本紀』に記されている。

寺は80数年かけて天平18年(746)に完成し、天平宝字5年(761)には僧尼に戒を授ける戒壇を設置、奈良の東大寺・下野(栃木県)の薬師寺と並んで日本三戒壇の一つに数えられている。

かつては方3町(約330m四方)の寺域を占め、講堂・金堂・五重塔などの建物が整った大寺院であったが、その後、火災や大風にあい、創建時の建物は失われている。現在の金堂と講堂は江戸時代に黒田藩主が再建したもので、県指定文化財となっている。



観世音寺絵図

**どのような建物があったのか** 観世音寺には往時の寺院建物を描いた絵図が伝えられている。おそらく平安時代末頃の様子を再現したものである。築地塀で囲まれた内側に中門と講堂を回廊で結び、さらにその内側には西に金堂を、東に五重の塔を並べて建物を配置している。絵図の左下には戒壇院かいだんいんも描かれている。



講堂の発掘調査

**発掘調査で何がわかったのか** 観世音寺境内やその周辺部で九州歴史資料館による発掘調査が進められている。調査の結果、本堂周辺に残る16個の礎石は創建講堂のものであり、建物は7間(約30m)x4間(約15.4m)であったこと、さらには講堂の礎石や塔の心礎も創建時から動いていなかったことが確認されている。

また、講堂正面の基壇きだんの調査では現在までに、5回の拡張が行われていたことも判明している。



大黒天像



舞楽面

**巨大な仏像と日本最古の梵鐘** 創建時に金堂や講堂におかれていた仏像はほとんど失われているが、宝蔵には平安時代から鎌倉時代につくられた高さ5mほどの巨大な仏像を含めて18体の仏像、狛犬、舞楽面などが収められている。この他、鐘楼に吊された国宝の梵鐘こまいねは、京都妙心寺と兄弟鐘とされ、日本最古の梵鐘ふだくねと考えられている。

講堂



「清水山」と記された扁額



「観世音寺」と記された扁額





正面は講堂の聖観音像



アップで見たところ



振り返って参道方向を見たところ



これは五重塔跡に残る心礎



別の角度から見たところ



そこから講堂方向を見たところ



正面は鐘楼

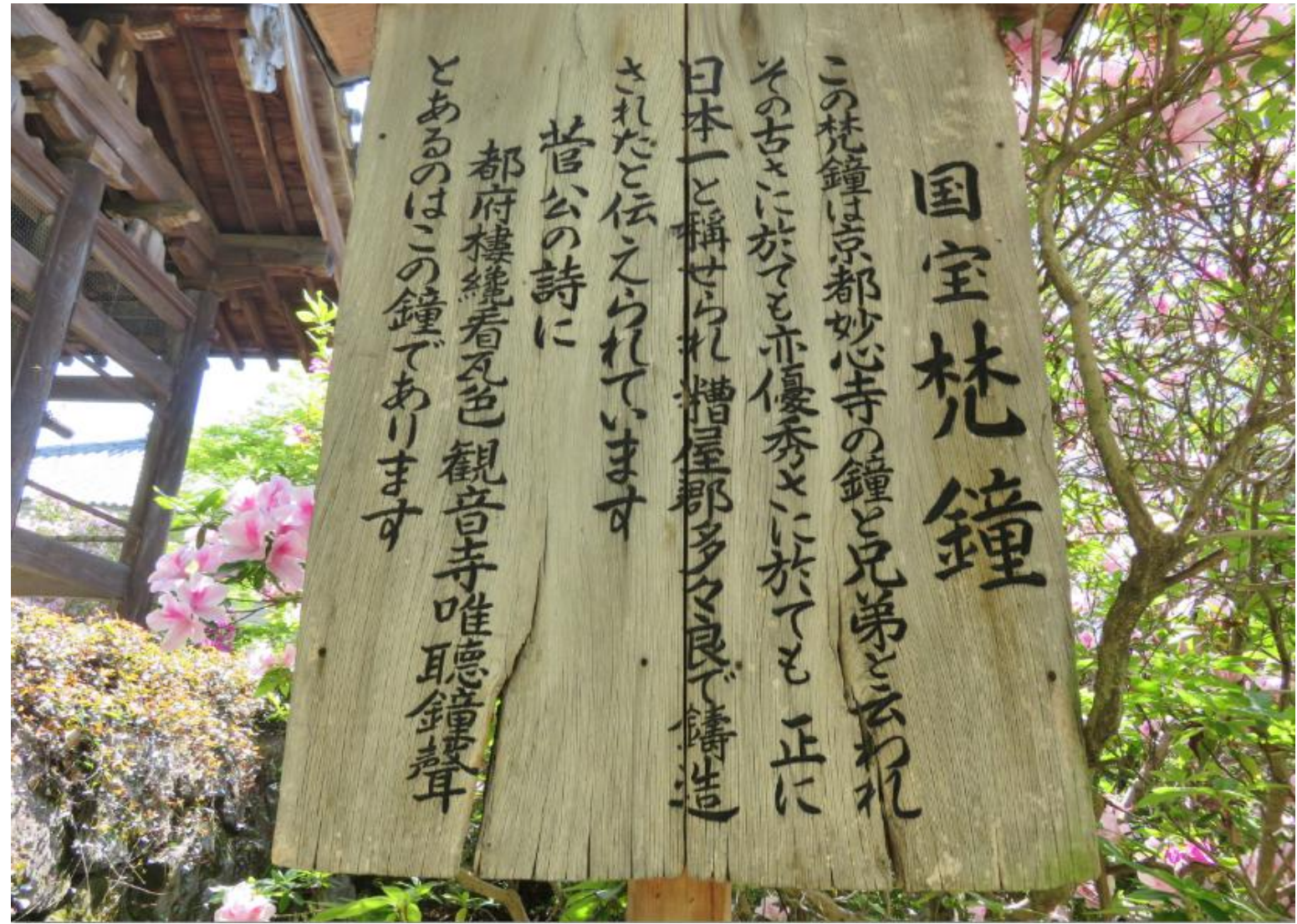


# 国宝梵鐘

この梵鐘は京都妙心寺の鐘と兄弟と云われ  
その古きに於ても亦優秀とに於ても正に  
日本一と稱せられ糟屋郡多々良で鑄造  
されたと伝えられています

菅公の詩に

都府樓繞看瓦色 観音寺唯聴鐘聲  
とあるのはこの鐘であります







これが「日本の音風景100選」にも選定されている梵鐘/国宝



これは宝蔵





参考ホームページ

<http://www.dazaifu.org/map/tanbo/tourismmap/4.html>

<http://www9.plala.or.jp/kinomuku/Kanzeon/kanzeon.html>

<https://www.dazaifu-japan-heritage.jp/bunkazai/detail.php?cId=500>

<http://www.ma.ccnw.ne.jp/kazuy/hyakudera/91/index.html>

<http://www.yado.co.jp/kankou/fukuoka/dazaifu/kanzeon/kanzeon.htm>

<http://kakitutei.web.fc2.com/yukari/dazaifu/sub3-2.html>

